

# 指導者として必要な心構えと知識、 運転技術を身につけてもらおう

ALSOK(本社・東京都港区)は、ホームセキュリティや防犯対策サービスを提供する企業だ。お客様の施設に設置した各種センサーが異常を感知すると、同社のガードマンがクルマ等で現場に急行し対応にあたる。こうした際、安全に現場まで移動するため、同社ではセーフティドライバー(以下、SD)認定員を養成し、このSD認定員が社員への安全運転教育を行っている。SD認定員を養成するための研修は、交通安全センター(レインボー埼玉)で毎年実施されている。その背景を同社セキュリティサービス第二機械警備業務指導課課長の今岡



2つのパイロンを結ぶ線上に車両のバンパーを誘導する訓練



路面に置かれた雑巾(ハガキ)に前後左右の各タイヤを載せる

## 2 ライダーが安全運転技能と交通マナーの向上をめざす

●第47回二輪車安全運転全国大会



8月2、3日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)にて「第47回二輪車安全運転全国大会」が開催された(主催:(一財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会)。同大会は、二輪運転者の安全運転技能と交通マナーの向上を図ることを目的として、昭和43

年から毎年開催されている。競技は、法規履行走行と技能走行。女性クラス(50cc)、高校生等クラス(50cc)、一般Aクラス(400cc)、一般Bクラス(1100cc)の4クラスに分かれて、全国47都道府県の代表選手186名が各クラスの個人賞と各クラスの得点を合計した総合得点で団体賞を競う。大会2日目には、記念式典が国際レーシングコースにて開催され、出場選手全員によるパレードが行われた。大会成績は、団体優勝が埼玉県、2位・兵庫県、3位・三重県。個人賞は、女性クラス・真鍋智香さん(三重県)、高校生等クラス・小菅凌さん(神奈川県)、一般Aクラス・中村永さん(千葉県)、一般Bクラス・本田和幸さん(熊本県)が優勝した。女性クラスで優勝した真鍋さんは「この大会に携わっていただいたすべての方と同じ時間を過ごせたこと

が幸せです。この経験を胸にこれからはもっと上手にバイクに乗れるよう楽しんで練習していきます」と涙をこらえながらスピーチを行った。また高校生等クラスで優勝した小菅さんは「初出場した昨年は3位だったので、その悔しさを忘れず練習し、優勝できました。監督や指導員の方々、そして今日応援に来てくださったサポーターの皆さんに感謝しています」と笑顔で喜びを語った。



5月20日から21日にかけて開催されたSD認定員養成専科研修は同社の監督職社員15名が受講



目標とするパイロンに車体を10~15cmまで近づける

「平成20年度にSD認定員制度を導入し、交通事故件数は当時から半減しました。SD認定員を通じて、社員一人ひとりにきめ細かい指導ができています。果だと思いません」と今岡さんはいう。同社では、SD認定員の再教育のための研修も交通安全センターレインボー埼玉で実施している。

要があります。また、皆さんは指導者ですから、安全運転を自ら実践して、それを周囲に広げてほしいと思います」と、指導者としての留意点を説いた。そして、トレーニングコースに出て、日常点検のポイント、正しい運転姿勢、クルマの死角を確認した後、実技が始まる。実技では、車両感覚を体得するための訓練とその指導方法に重点が置かれた。車両の前後にあるパイロンに対し、バンパーを10~15cmまで近づけて停止する。これができるようになると、路面に置かれた雑巾(ハガキ)枚ほどの面積)に、前後左右の各タイヤを載せる訓練となる。受講者は何度も降車し、パイロンや雑巾を確かめながら、車体や車輪と対象物との距離感をつかんでいく。そして、それぞれを自分が指導する時には、どのようなことがポイントとなるかを考える。「日頃、クルマを駐車させる時に、タイヤやバンパーの位置が

どこにあるか常に意識すること、こうした感覚を研ぎ澄ますことができません」とインストラクターはアドバイスした。実技では他にも、前進と後退でのパイロンスラロームなどが行われた。



パイロスラロームでは正しい運転姿勢と不適切な運転姿勢での違いを体験

## NEWS REVIEW

### 1 「原付スクーター Safety Riding!」を制作し、公開

●(一社)日本自動車工業会



(一社)日本自動車工業会(以下、自工会)が二輪車安全運転啓発の一環として、原付乗車時の心構えや日常点検、混合交通での注意点を動画で紹介する映像「原付スクーター Safety Riding!」を制作した(協力:(一社)日本二輪車普及安全協会、監修:(一財)日本交通安全教育普及協会)。7月18日よりYouTubeや自工会、日本二輪車普及安全協会のホームページで公開されている。

原付乗車中の交通事故件数は減少しているものの、事故運転者の約3割が運転免許取得から3年未満であるとの結果(平成24年)が出ている。原付は乗り方を学ぶ機会が新規取得時講習

しかなく、簡単に学習できるコンテンツが少ないのが現状であるため、短時間で体系的に学べるよう1項目3分程度で視聴できる内容になっている。映像は10項目で構成され、原付乗車時の心構えや日常点検だけでなく混合交通での注意点なども紹介している。自工会では、この「原付スクーター Safety Riding!」を通じて、これから原付免許を取得する人や原付利用者に対して正しい乗り方を訴求することで二輪車事故削減につなげたい考えだ。



※「原付スクーター Safety Riding!」は以下のホームページでご覧いただけます。  
http://www.jama.or.jp/motorcycle/  
http://www.jmpsa.or.jp/genchalle/training/